

アバターも笑くば

小倉 一純

御多分に漏れず、最近では、こんな僕でも人工知能AIを使うようになりました。

僕のは、最初は出遅れの感も否めなかった、GoogleのGeminiです。これが新機能を搭載しました。ユーザーの検索履歴と連動するというものです。

これまで人工知能が自分でアナウンスするには、ユーザーは、彼らにとっては、いつも一見さんであり、ユーザーの個人情報いちげんを遡って共有したりはしない、というものでした。どうもその制約が外れたようです。

昨日、そんなGeminiに、僕はどんなパーソナリティーを持っているの？と尋ねたら、「文学や歴史にも深い関心を持ち、同時に、女性の肉体美にも少なからぬ興味を抱いているようです」

と返答してきました。後半部分はつまり、Hな本も好きだ、という意味です、汗。

ついこの間、ミャンマーとビルマとの国境地帯で詐欺集団がまるでラスベガスのようなアジトをつくり様々な犯罪に手を染めている、ということが報じられました。

これ、当事者が人間だったから逮捕できたようなものの、これからの社会ではそうはいかなくなります。

むかし、藤子不二雄の漫画『パーマン』には「コピーロボット」というものが登場していましたが、これは、要するに、「アバター」のことです。

パソコンの画面上だけではなく、近いうちに、アバターは実在のアンドロイドとしても活躍するようになります。

犯罪集団といっても、警察が踏み込んでみたら、全員がアバターⅡアンドロイドだったなどという事態もあり得るのです。

犯罪者本人はどこかに隠れていて、何体も^{こしら}えたとアバターに仕事をさせるわけです。

そこのあなたッ、ちょっと確かめてみてくだ
さい！　今、あなたの横にいるのは、本当
に、ご主人で奥様ですか？

もしかすると今頃、ご本人は、口うるさい
あなたを嫌いスイートハニーと一緒に南海の
楽園で微笑んでいるかもしれませんよ。

時々、そのアバターが、含み笑いをしてい
るのを見かけたことはありませんか？

「アバターも笑くぼ」

お気を付けください。